

- 恩地孝四郎 版画家、装幀家、写真家、詩人。創作版画で芸術として認知させ、日本の抽象表現の先駆者にも。
- おんちこうしろう
足尾鉦毒始・1891＝ 東京府南豊島郡淀橋町(北新宿)で、楠木正成をルーツとする紀州の旧家から維新で東京に出て法律を学んで地方裁判所検事となった恩地轍の四男に生まれる。母頼は京都出身で父の2度目の妻。
- 日清戦争始・1894＝ 3歳：
- 白馬会・・・1896＝ 5歳：父はこの年明治天皇からじきじきに朝香宮(のちの東久邇宮)の教育を託されるほど厳格で、父が宮内省で明治天皇侍従、式部官など出世して行くなか、引っ込み思案で孤かな性格になり、広い屋敷の草花や小鳥・虫などを相手に育ち、
- ピアノ国産化・1900＝ 9歳：
- 日露戦争始・1904＝13歳：番町尋常高等小学校を卒業。父の希望で医者となるべく独協中学校へ入り、ドイツ語を学ぶ。
日露戦争終・1905＝14歳：
- 韓国反日暴動1907＝16歳：三兄が結核のため死去。
- 伊藤博文暗殺1909＝18歳：卒業。第三高等学校受験に失敗。白馬会洋画研究所へ通ううち、「夢二画集」に惹かれ、近くの竹久夢二の下宿に批評文を投入して認められて交遊始まり、夢二作品出版する洛陽堂にも知られる。妹の病死に続いて腹違いの次兄が心臓病で死去するなどして、弱気になった父から認められたのか、
韓国併合・・・1910＝19歳：*東京美術学校洋画科予科に入学。夢二主宰の雑誌「桜さく国・白風の巻」に「うささいはひ」ほか詩4篇、挿絵2点発表。洛陽堂のすすめで、西川光二郎著「悪人研究」を担当、装幀家として出発。
大逆事件判決1911＝20歳：美術学校彫刻科へ転科。夢二らとともに「都會スケッチ」を刊行。
明治天皇没・1912＝21歳：洋画科に復科。田中恭吉との親交はじまる。夢二著「どんたく」を装幀。
大正政変・・・1913＝22歳：恩地家に寄宿していた女子美術学校在学中の小林のぶと婚約。DER STURMの木版画展を見て、ドイツ表現主義作家の抽象版画に深く共鳴し、同窓の田中恭吉・藤森静雄とともに、詩と版画の同人誌「月映」を洛陽堂で発売元に創刊、北原白秋・室生犀星・萩原朔太郎との交友が始まる。
第一次大戦始1914＝23歳：藤森の妹の死に「月映」で追悼号、さらに田中恭吉の死去に遭遇、「月映」も終刊。武者小路実篤に傾倒するなどして通学せず、美術学校放校、徴兵検査受けるはめになるも幸い不合格。夢二著「小夜曲」装幀などするも、夢二風から一気に脱し、日本の近代絵画最初期抽象作品となる「抒情」シリーズ発表。
21ヶ条要求・1915＝24歳：のぶと結婚。(感情)創刊に際して同人に参加、表紙デザインを担当し、詩を発表。
民本主義・・・1916＝25歳：長女が誕生。*萩原朔太郎詩集「月に吠える」を、萩原の希望で田中恭吉が遺した作品で構成、装幀家確立。
ロシア革命・1917＝26歳：*室生犀星詩集「愛の詩集」装幀。(感情)が「恩地孝四郎抒情画集」特集。日本創作版画協会創立に加わり、第一次大戦終1918＝27歳：第一回展以後毎回出品。{みずゑ}創作版画号に「木版について二三」発表。北原白秋著「白秋小唄集」装幀で、べつじん条約・1919＝28歳：白秋の弟が経営する出版社「アルス」と出会い、独特の字体とともに日本の装幀史に一章を刻んで行く。
大暴落・・・1920＝29歳：長男が誕生。藤森と、総合芸術誌「内在」を編集発行、「セザンヌ」発表。初の個展。
原敬首相暗殺1921＝30歳：婚家先の姉を訪ね、台湾に滞在、各地を旅行。二男が誕生。
水平社結成・1922＝31歳：「内在」に「ルノアール」発表。日本創作版画協会創刊の「詩と版画」編集を担当。朔太郎詩集「月に吠える」第二巻に「アルス」から出すにあたり、自らの意向を強く出すもの一一新。恩地孝四郎小品展。
関東大震災・1923＝32歳：夢二らと「どんたく」図案社)を結成するも、大震災で、すぐに解散。1年間鶴見花園少女歌劇部に入る。
護憲三派圧勝1924＝33歳：二女が誕生。{詩と版画社}同人となり、版画、詩、論文を精力的に発表しながら研鑽。
治安維持法・1925＝34歳：{詩と版画}に「版画を始めた頃の思ひ出」発表。日曜洋画研究所の発足にあたり講師となる。
金融恐慌・・・1927＝36歳：詩と版画誌「港(のち風)」に加わり、版画やエッセイ発表。*初めて版画を受展する帝展に、版画「幼女浴後」を出品し初入選。山田耕作作品中心に日本交響楽協会出版案請多数の装幀を手がけ、作風も大きく変化。
共産党事件・1928＝37歳：父が死去。大阪朝日新聞の企画で、白秋と飛行機で柳河へ飛び、のち「飛行官能」に。川上澄生らと「創作版画倶楽部」を結成し、「近代劇全集」「白秋全集」などを装幀、
世界恐慌・・・1929＝38歳：「新東京百景創作版画」の頒布も開始。{風}に「人体考察」シリーズを発表。
満州事変・・・1931＝40歳：日本創作版画協会を改組した日本版画協会が設立、常任委員となる。モダンアート嫌う室生犀星から新聞連載小説「青い猿」の挿絵を依頼され、以後5作担当。金丸重嶺「商業写真術」を装幀、写真への関心高まる。
五一五事件・1932＝41歳：府下東荻(荻窪)に、建築家遠藤新の設計で新居。文化学院美術部講師。「リック」シリーズ始める。
国際連盟脱退1933＝42歳：母が死去。この頃、画廊(版画荘)の出すリーフレットに作品が自らのコメントとともに毎号紹介される。
帝人疑獄事件1934＝43歳：*最初の著作となる詩画集「海の童話」刊行。{版芸術}が「恩地孝四郎小品版画集」特集。詩・写真・版画の「飛行官能」刊行。パリの装飾芸術美術館で開催された「日本現代版画とその源流展」に7点出品、
芥川直木賞始1935＝44歳：花月園時代の自作作曲の作品をまとめ、童話歌劇小曲集「ゆめ」刊行。美本めざす志茂太郎の依頼で、「アオイ書房の月刊書誌(書窓)を企画編集し、「装本美術の構成」を連載。飛切り美しい詩画集「季節標」刊行。
二二六事件・1936＝45歳：国画会版画部の会員。棟方志功の出世作となる「大和し美し」を人一倍評価。ジュネーブで開催された「日本の古版画と日本現代版画展」に10点を出品、サンフランシスコでの「日本現代版画展」にも数点出品し、
日中戦争始・1937＝46歳：北園克衛詩集「夏の手紙」の装幀および挿絵。「欧米で巡回展示される。「ポエム」シリーズ始める。
第二次大戦始1939＝48歳：同志とともに「自宅で版画研究会(一本会)を開いて後進の指導にあたり、戦後まで継続。日本版画協会から選ばれ、陸軍省囑託として中国へ行き、帰国後、一連の写真と印象をまとめた個展を開く。
日米開戦・・・1941＝50歳：軍国化に対応して、印刷業界自らが変体活字廃棄運動起こし、優れた活字資産を償却するなか、志茂太郎は密かに石井茂吉の写植機を購入し、「書窓」を続ける。
・・・1942＝51歳：エッセイ集「工房雑記 美術随筆」、遊び心溢れた写真にエッセイつけたユニークな「博物志」刊行。
創価学会検挙1943＝52歳：詩画集「蟲・魚・介」刊行。発足した日本版画奉公会の理事長に選ばれる。エッセイ集「草・蟲・旅」刊行。代表作「氷島」の著者(萩原朔太郎像)。
年金+総武装1944＝53歳：印刷業強制廃業により、ついに「書窓」も103号をもって終わる。
敗戦・・・1945＝54歳：二男が戦死。太宰治の新聞連載小説「パンドラの匣」の挿絵を担当、戦後も逸早く版画・装幀に集中。
新憲法公布・1946＝55歳：自宅を日本版画協会に開放。「詞華集・日本の花」。作品がアメリカ軍人兼美術愛好家に注目されたことが縁で、占領軍の教育本部で諏訪根自子の演奏を聴き、代表作「あるヴァイオリニストの肖像」制作。
新憲法施行・1947＝56歳：童話挿絵集「ちいさいひとへのおはなし・春夏秋冬」を刊行。
極東裁判決・1948＝57歳：「フォルム」シリーズ始める。
三大事件・・・1949＝58歳：発足した日本美術家連盟理事。博報堂が装幀相談所創立、所長となり尽力。第1回アンデパンダン展に3点出品。第1回装幀美術展、長与善郎著「その夜」装幀で一般教養書一位。「コンポジション」シリーズ始める。
朝鮮戦争始・1950＝59歳：「人間のつくる美」。日本橋三越で「恩地孝四郎新作版画展」、二十六点を出品。さらに本格的蒐集家スタッラーによって作品の多くがアメリカに渡り、恩地が切り開いた現代日本版画が評価され、
独立回復・・・1951＝60歳：「自らも出品した第1回サンパウロ・ピエンナーレ展での斎藤清・駒井哲郎皮切りに、
メデー事件・1952＝61歳：再び出品した第2回ルガノ国際版画展などで、日本人版画家が次々グラン・プリに輝くことになる。自らは装幀家と見なされるのに不満ながらも「本の美術」を刊行。
テレビ放送始・1953＝62歳：第5回装幀美術展で「装幀三十年回顧展」を特別展示。「日本の現代版画」刊行。国際版画協会が創立され、初代理事長に選ばれる。岡本太郎らと国際アートクラブ日本支部を発足させる。
自衛隊発足・1954＝63歳：ニューヨークでの第18回アメリカ抽象美術展に出品。「オブジェ」「イマージュ」シリーズ始めるも、わが身に違和感を覚え、第9回国画会秋季展に「イマージュNo.8 自分の死顔」出品、
55年体制始・1955＝64歳：*ついに東大病院に入院。中枢神経障害による全身障害と診断され、退院して自宅療養に努めるも、心臓麻痺で没した。生涯に渡り幅広い分野で600点の装幀を手掛けた。遺稿詩画集「日本の憂愁」刊行。